

ゴミ袋の有料化について

篠木 正明 議員



質問 ゴミ袋の有料化により、当初はゴミが減りますが、その後、リバウンドが起きます。本当にゴミ袋の有料化でゴミは減ると考えていますか。

答弁 袋代を節約するために、「生ゴミの水切りを徹底しよう」「食べ残しをなくそう」という意識が高まるこ

とが期待できます。大多数の自治体ではリバウンドがあります。リバウンドしない自治体もあります。

質問 可燃ゴミだけでなく、ビン・カン・ペットボトルの計4種類の有料指定ゴミ袋を導入する計画になっています。資源ゴミを捨てるためのゴミ袋が新たなゴミ

になり、ゴミが増えるのではないですか。

答弁 資源ゴミの袋分のゴミが増えてしまいましたが、有料化によって、ゴミが10%削減できれば、市全体で2475トン減ります。

質問 「ゴミが10%減った」の話しでしょう。資源ゴミにゴミ袋が必要になれば、その分のゴミが増えるのは確かではないですか。

次にリサイクル率が向上するのか、お尋ねします。可燃ゴミだけの有料化な

ら、費用負担を抑えるため分別を徹底しようという意識が働きますが、ビン・カン・ペットボトルも有料化すれば、そのような意識は働かないではないですか。これでリサイクル率は向上するのですか。

答弁 審議会の答申では、資源ゴミについては、可燃ゴミ用袋との価格差をつけることや、拠点回収も検討しなさいとされています。

質問 価格差をつけるのは、現実には難しいと思いま

す。また、4種類のゴミ袋を用意するのは煩わしいと分別がおろそかになる懸念もあります。ゴミ袋有料化による効果は期待できないと思います。市長は、ゴミ袋有料化を見直す考えはないのですか。

答弁 循環型社会の実現に向けた有効な手段が、有料指定ゴミ袋の導入です。審議会の答申を踏まえつつ、多くのみなさんの声を聞きながら進めていきたいと考えています。

学校給食における安全な食材の確保と 幼児教育・保育の負担軽減について

田辺 純子 議員



質問 学校給食における安全な食材の確保のため、国産小麦を使った製品への切替えや米飯を増やす考えは。

答弁 米飯給食は週4回程度提供しています。また、輸入小麦製品は、輸入の段階で厳格な基準を満たしているとしており、引き続き安全かつ栄養バランス

の取れた学校給食の提供に努めていきます。

要望 海外では、収穫前に除草剤を散布するプレハーベスト処理が認められており、輸入小麦使用製品からは、除草剤のグリホサートが検出される頻度が高い。一方で国産小麦を使用する製品からは検出されないた

め、輸入小麦の使用を避ける取組を進めてほしい。

質問 県内20の自治体で幼児教育・保育の副食費無償化が進んでいるが、本市で無償化されない理由は。

答弁 副食費無償化には、年間約4402万円の財政負担が見込まれ、限られた財源の中での優先順位等を考慮すると、直ちに無償化をすることは厳しいものとして認識しています。

質問 他自治体は、国の制度による小中学校給食の無

償化で発生した財源を活用し、副食費の無償化を進めている。子育て支援の格差を解消するための取組は。

答弁 重要な課題であると認識し、他の子育て支援策とのバランスを考慮して総合的に判断していきます。

質問 近隣1市5町の中で、千代田町、明和町、邑楽町は無償化されている。館林市だけ取り残されないよう、最優先課題として取り組んでいただきたい。保育料の無償化も進んでいるが、ま

ずは第2子の保育料を無償化する考えは。

答弁 第2子無償化の動きが加速していることは重く受け止めています。本市では、まず低所得者世帯や多子世帯に対する現行の保育料軽減制度を確実に実施し、その上で、新たな支援策の在り方を検討します。

要望 近隣自治体の状況を重く受け止め、子育て支援策に一番に取り組む館林市を目指し、関係機関が協力して取り組んでほしい。